

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年10月8日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103482
法人名	医療法人 友志会
事業所名	グループホーム玉里
所在地	鹿児島県鹿児島市玉里団地二丁目5番1号 電話番号 099-220-3115
自己評価作成日	令和2年9月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年9月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体の内科・循環器内科のクリニックが同一敷地内に位置し、在宅療養支援診療所の届出をしており、月2回の医師の訪問診療が受けられるため、病気を持っておられる御利用者も安心して過ごして頂けます。また、看取りにも対応しており、刻み食やミキサー食を作るなどして、最後まで経口摂取をして頂けるよう工夫しています。食事は楽しんで頂けるよう、多彩な食材料を使用して高齢者好みの料理を作り、喜んで頂いています。

当ホームは、医療機関が母体の事業所であり、隣接したビルの2階・3階に位置している。1階には、デイサービスが併設され地域の方が通っておられる。また、近隣は、大型団地が近くにあり郵便局やコンビニエンスストア、大型スーパーがあり、幹線道路に程近いため利便性が良い。

町内会に加入しており、年1回清掃活動に参加したり地域行事へ参加している。中学校の職場体験や知的障害者の中高生の実習生、ボランティアの受入れを柔軟におこなうなど社会貢献している。

母体の医療機関とは24時間、医療連携が図られ体調不良時や緊急時、他重度化や終末期において主治医や看護職との協力関係が築かれている。また、他科受診については、家族の協力得て、職員と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。職員は、喀痰吸引研修も受講しており利用者や家族などの安心感を得ている。重度化した場合などは、ホームの指針を十分に説明し理解を得て、主治医と相談し支援している。

年2回、避難訓練は昼夜想定にて実施している。自主訓練は、年1回実施し、通報装置の点検などは専門業者に委託している。また、近隣のコンビニエンスストアや郵便局、薬局などに避難の協力依頼をしており、法人の協力体制もある。飲料水や缶詰、米、黒砂糖などを備蓄している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は職員室の壁に貼り、職員は常に目を通すよう努める傍ら、訪問客や入居者の方々がいっでもご覧になれるよう廊下にも掲示している。	理念は、廊下や職員室に掲示され来訪者や家族の目に触れ職員の意識づけが図れるよう配慮している。管理者は、申し送りや毎月のミーティングなどで理念に触れ確認するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験の受け入れや、近隣の公園やスーパーストア等へ散歩や買い物を兼ね実施できていたが、新型コロナ禍以降はほぼ実施できていない。	町内会に加入し、地域の清掃活動に参加している。また、散歩がてら近所のスーパーなどで買い物をしたりするなど外出支援をおこない、中学生の職場体験、知的障害者の中高生の実習やボランティアの受け入れをおこなうなどして地域交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣の方々の介護相談、ホーム見学など応じていたのだが、新型コロナ禍以降は遠慮させて頂いている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、テーマを決め話し合い、サービス向上に努めていたが、新型コロナ禍以降は皆無。新型コロナ禍以降は皆無。情報収集は決して巧くは行っていない	現在は、新型コロナウイルス感染拡大のため、2ヶ月毎に開催されていた運営推進会議は行われていないが、平常時は、定期的に開催され、事業所の活動や介護状況などを報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>生活保護課の担当者、長寿いきいき課担当者の方々とは気軽に質疑応答をできる間柄にあり、協力関係、連携を恙なく行えている。</p>	<p>管理者は、電話や面談にて報告や助言などをいただくよう心がけている。保護課の職員との連携もあり協力関係を築いている。介護相談員も受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会や内部研修を定期的に行い、身体拘束禁止に関し、より知識、認識力を高め、身体拘束ゼロに取り組んでいるも、新型コロナ禍以降は身体拘束委員会は開催されていない。</p>	<p>身体拘束をしない方針や指針があり、昼間も玄関の施錠しないよう取り組んでいる。また、内部研修は定期的実施され身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を開催し、虐待のことは全職員が周知、理解している。故に、虐待防止は徹底している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の権利や成年後見制度について勉強会で学び、その必要性も理解している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書、運営規定、契約にあたっての説明を充分行い、改定時には玄関入口の壁に張ってあるそれらに記載変更している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>敬老会の後、家族会を催し、御家族から直接意見を承り、可能な事柄は直ぐに実行している。新型コロナ禍以降は電話に御家族の要望、意見等を拝聴している。</p>	<p>管理者は、家族会や敬老会などの行事を通じて意見、要望を聞く機会や介護相談員の意見を聴取しサービスに活かすよう努めている。新型コロナウイルス感染症による面会制限があるが、家族には電話などで利用者の様子や事業所運営などについて説明し理解をいただくよう努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者や管理者は運営に関して職員の意見を聞き、より良きホームにするよう努めている。</p>	<p>代表者や管理者は、ミーティングやケアカンファレンスなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。法人間の移動があり、ユニット間の入れ替わりもたあるが離職は少ないが職員の高齢化が否めない。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>処遇改善加算を申請したりして、職員の給料に少しでも反映させることができるよう努めている。また希望休の日は成就できるように努め、有給休暇も取得できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ある程度実施されていたが、新型コロナウイルス禍以降は外部研修は皆無。トレーニングは日々のケアの中で適時、適切に行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者のみが他のグループホーム管理者との交流はあるも、今年参加予定にあったグループホーム協議会への参入は新型コロナウイルス禍で見送る。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後ある程度一定期間対象者の言動を具に検証。コミュニケーション摂取に努める。結果徐々にホームでの生活に馴染んでいけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後ある程度一定期間対象者の言動を具に検証。コミュニケーション摂取に努める。結果徐々にホームでの生活に馴染んでいけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、家族と会談の場を幾度か設定、実行。入居時以降は入居者と家族と一体化したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心に寄り添ったケアに努めている。心の中で入居者の心情を慮り、自分と投影することを常に意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意思を確認し、希望に添い、家族と電話でお話しして頂く場し家族との絆を実感して頂けるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との親睦は支援してきたが、新型コロナ禍以降は皆無に近い。	携帯電話で家族などと連絡を取り交流される方がおられたり、家族の理解や協力を得て、外出や外泊をされていた方もあったが、現在は制限されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士にも微細ながらも人間関係は現存する。その点も考慮しながらテーブル位置を決める場面は少なくはない。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が看取りを希望されているため、途中でサービス利用が終了されることは無い。死亡退去及び転院後も御家族の相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者其々の思いや希望を理解できるよう努めている。自己訴えのできない方は表情や仕草、普段の会話から理解できるよう努めている。	会話や暮らしの中で本人の思いを感じ取り、言葉にならなくても視線や表情、行動を参考にして本人の思いを汲み取り、家族や職員と情報を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当日、それまでの接見に於いて得ることのできなかった情報等を充分聞き取り、その歴史も受け止め、入居してから、安心して生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課を核として生活して頂くも、一人一人の毎日の過ごし方に差異はあって当然。その事実を踏まえながら有する力を理解し、引き出すことに重きを置いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、本人の意見に耳を傾けながらも家族と話し合う機会を設け、職員間で話し合い、ケアプランに繁榮させ、完成事前に本人、家族に説明している。	管理者や職員は、申し送りやケアカンファレンスで意見交換し、目標や課題について検討している。利用者や家族の思いや利用者の希望が反映した介護計画書である。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌を参照に職員全員が同じ情報を共有し、理解し話し合う機会を設け、介護計画に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望が成就されるよう、ホームで支援できる部分に関しては手を差し伸べているが、個人的欲求は家族の力を借りながらの対応に努めてきたが、新型コロナ禍以降は寸断された形になっている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物に頻回に出られるよう努めてきたが、新型コロナ禍以降は様変わりしてしまい実践困難。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームの運営母体は内科のクリニックであり、在宅療養支援診療所を届出おり、訪問診療を行っているので、受診や往診等必要な医療が適時受けられる。	母体の医療機関とは、昼夜問わず切れ目のない医療連携が図られており、緊急時の往診や訪問診療が行われ利用者や家族の安心や信頼感が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療日は医師と共に看護氏も帯同するので色んなことを相談できる。また、その際、看護師若しくは介護支援専門員兼管理者が、予め作成、提出した上申書を基に、医師より適正な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医が紹介状を書くなどしてサポートしている。また、新型コロナ禍以前は管理者が適切に見舞いがてら病院に赴き、看護師等とコミュニケーションを図り、帰園した以降も安心して生活できるうしている。尚、現在は情報収集は電話依存が現実。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際、重度化対応に関して説明し、当ホームでの看取りも可能であることを説明し、御要望があれば、終末期に向けた方針を話し合い、出来るだけのサポートをすべく職員一丸となり、取り組んでいる。	看取りに関する指針があり、書面にて利用者、家族に説明し同意を得ている。事業所でできることを十分に説明しながら、家族、主治医、職員が協力し看取りを実施している。喀痰吸引研修を受講した職員もおおり、重度化や終末期ケアへの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応としては当ホーム看護師や経験豊富な管理者兼ケアマネージャーが職員に知識を与え、現実緊急時に該当する場合、医師との連携を巧妙にし、万全を期している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災を想定した避難訓練、地震時の避難方法を想定し、話し合い訓練している。市の指導のもと、運営規定にも火災。地震・台風時の対応を明確に記してある。</p>	<p>昼夜想定にて、年2回避難訓練を実施しており、近隣のコンビニエンスストアや郵便局などの地域協力や法人の協力体制もある。飲料水や缶詰、米、黒砂糖などを備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーション摂取を重視しながら、利用者様の人格を尊重した言葉掛を行っている。プライバシーを確保できるよう入室の際は言葉かけ、ノックをし、利用者様の意思に沿っている。	管理者は、丁寧な言葉使いや敬語で話すよう職員に教育しているが、まだ配慮の足りない声掛けも見受けられ、今後の課題である。申し送りは、利用者から離れておこなうなど認知症やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の際の衣替えの服は利用者様自身で決めて貰ったり、日課である飲食摂取時間は本人の意思を慮り、体調に合わせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大前提は利用者様の権利と僅かながらの義務。危険性が伴わない限り、利用者様の権利を重んじ、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	御自身で服を選べる方は意に任せている。基本的にお洒落を楽しみ、身だしなみを整えられるよう職員はサポートしている。主役は利用者本人。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は其々に合った大きさに食べやすく切ったり、目でも楽しめるよう彩りや盛り付けを大事にしている。食前、食後の準備や片付け等もして頂いている。	食事形態を工夫し、食べやすく嚥下がしやすいよう調理したり、彩りを考えた盛り付けを意識し視覚を重視して食欲を促すなどしている。能力に応じた手伝いをいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を吟味し、バランスの良い高齢者向けの食事を選択し、提供している。重要な問題でもある水分摂取は個人個人の許容量に合わせて、こまめに摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは必須。御利用者様の能力に応じた口腔ケアをして貰い、出来ない部分は手を差し伸べている。口腔ケアは大事であり職員も周知している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ポータブルトイレを居室に備えたり、トイレ誘導をしたりして、失敗無きよう配慮している。また、安易にオムツ使用に至らぬよう支援している。	排泄のリズムを把握し、利用者の身体状況に応じた排泄が図れるよう支援している。布下着を好まれる方への配慮があったり、夜間はポータブルトイレを使用して排泄を促すなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜や果物を多く摂り入れる等工夫しているが、どうしても便秘傾向にある方が多く、薬に頼らざる得ない方も少なくはない。結果として、薬を定期的に服用して貰い定期的に排便があるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の嗜好は各人其々。そこにバイタルも関与する。利用者様を無理に入浴させる現実はない。拒否の無い範囲で入浴時間でのコミュニケーション摂取に力を入れている。	利用者の希望や必要性に応じて入浴を支援している。管理者は、利用者との信頼関係を大切にし常にコミュニケーションをはかるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	真実20時間眠る利用者様もいる。生活不活発病に至らぬよう配慮した支援を心掛けている。その日に寄って眠られない方もいるが、寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様は方は、其々で持っている病も異なる。当然薬も一人一人異なる。職員は誤薬無きよう充分注意を払いながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで貰ったり、テーブル拭きやホールの掃除を手伝って貰ったり、貰ったりしている。またレクリエーションで共に歌うことで気分転換が図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、スーパーストアへの買い物等実施していたが、新型コロナ禍以降はほぼ皆無。	天候の良い日は、近隣へ散歩や買い物に出かけている。また、計画的に外出もしているが、現在は諸事情もあり実施できていない。外食が困難な方への配慮もあり、テイクアウトにて食事を楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	各自預り金を持っておられるので欲しい物があれば職員と共に近隣のスーパーに買い物に出掛けたりしていたが、新型コロナ禍以降は皆無。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話がしたい。家族と話がしたいと言われる利用者様は管理者の携帯電話を用い会話をすることもある。手紙はたまに届くことはあるも返事は不可能な方が多く、電話使用に至る。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ホールにはテーブルの他、複数のソファを配置してあるので、気ままで自由な世界観を楽しむようにしている。建物構造上光がふんだんに入るので、彩光面には配慮し、眩し過ぎないように気を遣っている。通年し、利用者様方が快適に過ごせるよう尽力している。	2階・3階にユニットが分かれており、共有スペースは広く採光もあり、事務所はガラス張りである。また、重度認知症の方でホールで介護されている方がいるが周囲に溶け込み落ち着いている。利用者はソファにて思い思いに穏やかに過ごすなどしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者様にも人間関係は存在する。それが実体である。仲の良い者同士同じテーブルで楽しく過ごせるよう留意している。日課以外は特に制限することは無い。故に、独りで過ごせる時間は充分ある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時持ち込まれた物や家具、調度品、小物など好みの物を居室に置き、配置替えは自由。利用者が安全に心地よく過ごせるよう配慮している。	ベッド、タンス、洗面台などは備え付けであるが、使い馴染んだ品を持ち込んでいただき、居心地よく過ごしていただくよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は自由に闊歩できるようバリアフリーに配慮してある。安全且つ自立した生活は営まれる。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない